

医療法人社団

うめや歯科クリニック

電子立国・日本が開発した最先端歯科用CTによる
安心・安全・精密な審美歯科・インプラント診療を実施

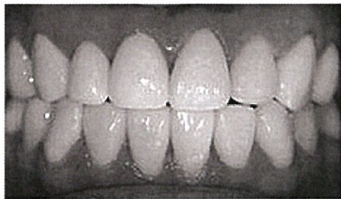
札幌西区にある「うめや歯科クリニック」では、最先端歯科用CTとイタリアで開発されたインプラント3D・レイセット法のコラボレーションによる精密無痛インプラント治療が行われている。村住彰彦理事長は、イエテボリ大学で日本人として初めて臨床特訓コースに参加。当時からインプラント治療に取り組み、その後イタリアにて歯周外科再生治療・骨組織再生・インプラント手術の研修など多数の海外研修履歴がある。一方、97年からはコンピュータ制御セラミック治療法「セレック」に取り組みようになり、03年には、世界で初めて全顎3D仮想模型の制作に成功した。この発表により一歯単位の治療から全顎におよぶ設計



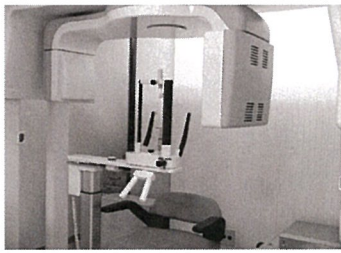
精度の高い3Dを実現した「RaySet」



2008年4月保険適用となった最新レーザー「Erwin AdvErL」も好評



セレック3Dシステムで、審美的にも良好なハリウッドホワイのオールセラミッククラウンもセット可能



日本のデンタル画像技術が生んだ最新の歯科用デンタルCT



理事長・院長 村住 彰彦氏

1985年日本大学歯学部卒業。90年うめや歯科クリニックを開設し院長就任。インプラントオステオインテグレーション(AO)学会、ヨーロッパオステオインテグレーション(EAO)学会各会員。国際歯科コンピューター化(ISCD)学会公認セレック指導員

変更が行われ、セレック20周年ベルリン大会では高い評価が得られた。07年頃からインプラント治療用ソフト「ノーベルガイド」を採用。同ソフトは、患者のCTデータを利用してコンピュータ上で正確なインプラント治療の計画を作り実施する治療法。この治療法は、水平的に約2ミリの誤差が発生するため、より精度の高いシステムを追求するため、北イタリアにて臨床研修実習コースを受講した唯一の日本人で、国内の第一人者。

インプラント3D・レイセット法は、放射線造影性のあるガイドマウスピースを製作後にCT撮影を実施することで、歯肉の厚みがわかり3D画面上で3D基準平面を設定する。これよりコンピュータ上でインプラント埋入位置を仮想デザインし、そのデータを実態模型に映し出す操作を行うことが出来る。この実態模型に正確に埋め込むための外科用ステントを院内で製作することができ、変形することなく滅菌できるため正確で清潔だ。

院内にある歯科用CT「アルファード・ベガ」は、国内販売されている機種では最高峰で、それを独り占めした贅沢な診療が行われている。インプラント治療の診査・診断と外科用ステントの適合度を調べ、インプラント埋入後の経過観察にも利用し「より安全でよりスピーディーに痛くないインプラント治療」を可能にした。この歯科用CTは、一本の歯から顎顔面全体までの範囲で立体画像を0.1mm単位の断面で映し出すことが出来る。「これまでのレントゲン写真では映りにくかった隠れた病巣を3Dで詳細に確認でき、患者さんにもわかりやすく説明が出来るようになった。歯科用CTというものが、これからの歯科医院選びの大きな基準になると思います」と話す。

札幌市西区西町南5丁目1-20

うめやスポーツビル3階

TEL.011-663-6203

☎0120-91-8148 (24時間自動音声予約)

院長/村住 彰彦

診療科目/歯科・小児歯科・歯科口腔外科・矯正歯科

診療時間/月・火・金 9:00~11:30 14:00~17:30

水曜 9:00~12:00

土・日 9:00~11:30 14:00~17:00

休診日/木曜・祝日

<http://www.plaquecontrol.com>

<http://www.cerec4.com>